出火件数について

2021年中の出火件数は58件で、昨年と比べると3件増加しました。
全国的にみると、明石市は火災が少ない都市です。

出火率

全　国:2.72件
兵庫県:2.69件
明石市:1.90件

※ 出火率とは？
人口1万人あたりの火災件数　火災件数÷人口×1万＝出火率
☞ 出火率の数値が低いほど火災が少ない

※ 全国と兵庫県の数値は、2021年出火率が発表されていないので、2020年の数値です。

出火原因について

58件の火災原因の上位は、表1のようになっています。
また、住宅火災は58件中26件で、この住宅火災に限定すると、出火原因の上位は表2のようになります。

表1（火災全体・58件）

	原　因	件数
1位	放火・放火の疑い	10件
2位	たばこ	6件
3位	こんろ、電気機器、衝突の火花	5件

表2（住宅火災・26件）

	原　因	件数
1位	たばこ	5件
2位	こんろ、配線器具	4件
3位	電気機器、放火	3件

住宅火災について

住宅火災は外からの発生よりも、圧倒的に家の中から発生する方が多いのです。
これは2021年に限ったことではなく、毎年同じような傾向となっています。

特に多い原因（例）

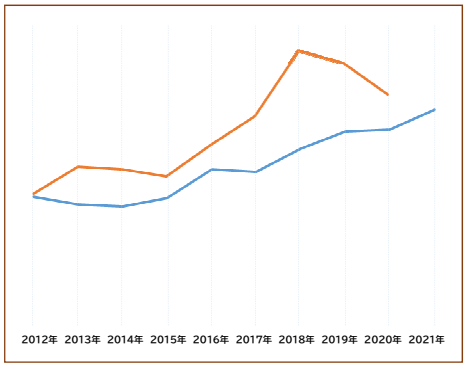
・寝たばこ
・電気ストーブで洗濯物を乾燥中に洗濯物が落ちて出火
・揚げ物をするために油をこんろで加熱中、その場を離れる
・コンセント周辺にたまった埃が回路となって通電しショートする

住宅火災を防ぐために

住宅火災は、少し気をつけるだけでほとんどの火災が防げます。
今一度、普段の行動を確認してみましょう。

救助出動件数について

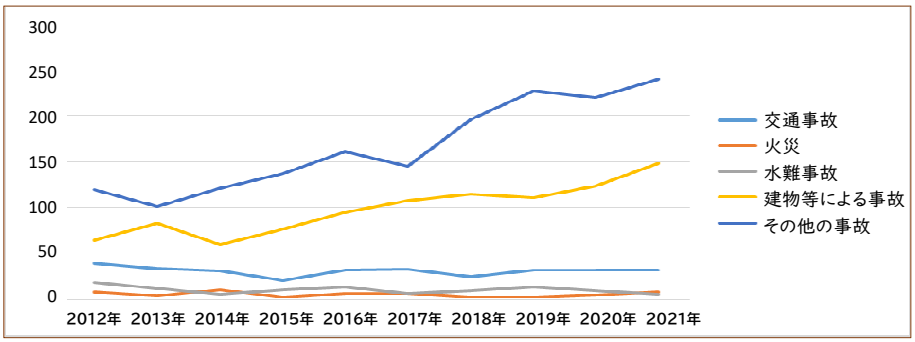
2021年中の救助出動件数は436件で、昨年と比べると41件増加しました。
救助出動件数は、毎年増加傾向で、この10年で約1.7倍増えています。
全国的にみると増加傾向でしたが、ここ数年は減少傾向です。



凡例
明石市消防局の救助出動件数増減の推移
全国救助出動件数増減の推移（総務省統計から）
※全国統計は2020年までしか公表されていません

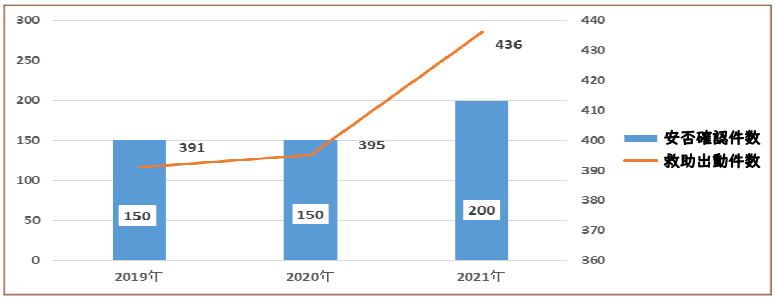
事故種別について

市内では増加傾向にある救助出動件数ですが、事故種別でみると、「交通事故」、「火災」、「水難事故」の件数はこの10年ほとんど変動していません。
一方、「建物による事故」と「その他の事故」の件数増加が顕著です。



建物による事故について

「建物による事故」と「その他の事故」の中で多くを占めている事例が、玄関や窓が閉まって中に入れないが、室内で人が倒れているのではないか？といった居住者の安否を心配する通報により出動する事例です。
実際に居住者が室内で倒れていた場合は「建物による事故」とし、居住者が不在だった場合は「その他の事故」としています。



※明確に安否確認の定義がないため、通報内容と現場の状況から安否確認事案かどうかを判断し、計上しています。
そのため、数値はおおよそ値となります。

安否確認について

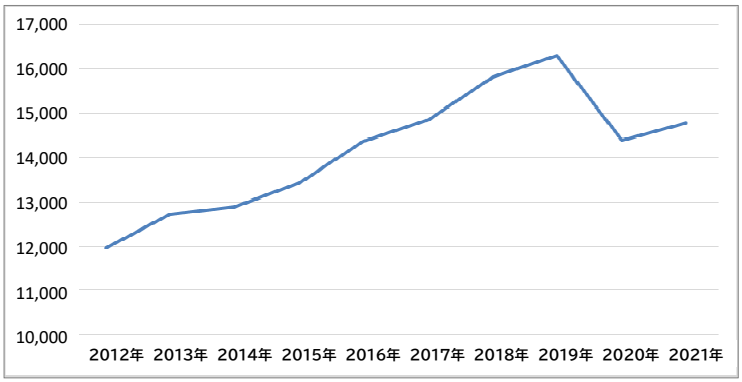
このような建物施錠による安否確認の出動が年々増加しています。

室内で動けなくなった場合、早期に発見することができれば、最悪の事態を防げる可能性が高まります。

特にお一人で生活されている方は、親族・友人の訪問や電話の回数を増やしたり、地域のつながりを持つなど、異常があればすぐに気付いて貰えるような環境作りが大事です。
また、自身の健康状態を常に気にして異常があれば病院に行きましょう。

救急出動件数について

2021年中の救急出動件数は14,782件で、昨年と比べると395件増加しました。コロナ禍により一時的に救急需要が減りましたが、再び増加傾向に転じています。



救急搬送人員について

14, 782件の救急出動件数のうち、医療機関へ搬送したのは12, 565人です。
この搬送人員を
①年齢別②程度別③事故種別
に細分化してみました。
その結果が右表のとおりです。

年齢区分が上がるほど、救急搬送者の入院率が上がっています。

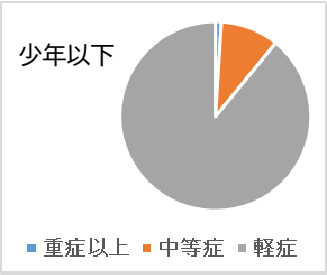
区　分	程度	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
少年以下（18歳未満）	重症以上	2		3	10	15
	中等症	199	8	29	84	320
	軽症	536	90	262	59	947
	計	737	98	294	153	1,282
成人（18～64歳）	重症以上	60	15	8	62	145
	中等症	794	81	65	341	1,281
	軽症	1,412	367	250	126	2,155
	計	2,266	463	323	529	3,581
高齢者（65歳以上）	重症以上	340	11	103	85	539
	中等症	2,876	59	633	837	4,405
	軽症	1,793	173	745	47	2,758
	計	5,009	243	1,481	969	7,702
合　計		**8,012**	**804**	**2,098**	**1,651**	**12,565**

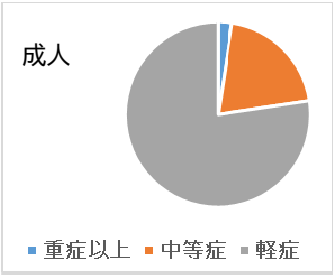
重　症：3週間以上の入院加療が必要
中等症：入院を必要とし重症に至らないもの
軽　症：入院を必要としない

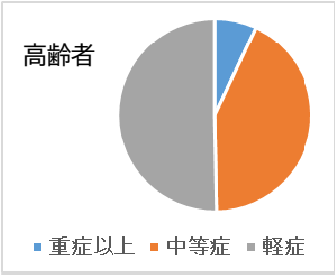
一般負傷について

今回注目したいのが、一般負傷の入院率です。
以下の円グラフは一般負傷の程度割合を表したものです。

年齢別円グラフ







※中等症以上が入院となります

転倒負傷の予防について

一般負傷とは、急病や交通事故、運動競技などの事故種別に分類されない不慮の事故という定義になっていますが、主にどのような事故が含まれるのかというと、自宅内での転倒負傷や屋外での歩行中の転倒負傷です。

先ほどの年齢別円グラフが示すとおり、年齢が上がるほど、転倒しただけで入院が必要となる大きな怪我になる可能性が高まります。
自宅内では、つまずきそうな物を床に置かないようにしましょう。

明石市消防局では、介護予防事業として脳卒中や高齢者の転倒負傷を予防する取り組みを行っています。